



4歳児 ぱんだ組

ぱんだだより No.11



令和5年度2月28日
田島わくわく保育園
担任 熊谷・五十嵐

節分お楽しみ会

ぱんだ組では、新聞紙や画用紙・牛乳パックを使って鬼の帽子、豆、豆入れを作りました。心の中にあるやつけたい鬼は「ママの言うことを聞かない鬼」「先生の話聞かない鬼」「好き嫌い鬼」と様々な鬼が出てきました。子ども達一人一人自分の直したいと思っていることが確認できました。自分の直したいところを言葉に表現できることは素晴らしいことだと思います。炒ってもらった豆を見に行ったら際には「いい匂い」「美味しそう」という声があふれ、園長先生からの節分の由来や豆を炒る理由の話の際には、全員が話に興味を持ち静かに聞いていました。鬼の姿が見えると、怖くて涙を流してしまうお友達もいましたがそれでも新聞紙の豆を投げて鬼をやっつけようとしていました。特別献立では、おまめ入りカレーを様々な具材で鬼の顔を作り楽しそうに給食をモリモリ食べていました。



お店屋さんごっこ

1月からぱんだ組の全員で考え準備していた「らあめんやさん」が2/7からオープンし、田島わくわく保育園の全員がお店屋さんに来て楽しんでくれました。ぱんだ組の子ども達も自分の役割を周りを見ながら見つけ考え行動していました。嬉しそうな表情や真剣な表情、困った表情など様々な表情が見ることができ、その中でも「箸貸して」「これ手伝って」と声を掛け合う姿や小さいクラスのお友達が来てくれると腰をかがめて同じ目線になって話をしたり、「どのらあめんにする？」と優しく声を掛けてあげたりしている様子が多く見られ感動しました。それと同時に今年の4月から年長児となり小さいクラスの友達を助けてあげようとする気持ちが十分に育っていることも知る事ができ、今のきりん組さんに優しくしていただいたことを受け継ぎ、次の代の友達へと繋げていって欲しいと思います。



天神講

菅原道真公の掛け軸の前で頑張りたいことを大きな画用紙に絵を描いて写真を取りました。「コマを上手に回せるようになりたい」、「縄跳びが跳べるようになりたい」、「ダンスを上手になりたい」など頑張りたいことが絵にしっかりと現れていました。無我夢中に絵を描いたり隣や近くのお友達と楽しそうにおしゃべりしながら描いていたり十人十色でした。全員が自分の頑張りたいことに何にでも取り組んでいこうとする気持ちや何度でもチャレンジする心が育って欲しいと思います。

